

原発のない 世界をつくろう。 たしかかな情報と 市民の力で。

入会のご案内



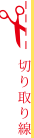
認定特定非営利活動法人
原子力資料情報室
Citizens' Nuclear Information Center



認定特定非営利活動法人 原子力資料情報室
〒164-0011 東京都中央区中央2-48-4 小倉ビル1階

TEL 03-6821-3211
FAX 03-5358-9791
E-mail cnic@nifty.com

●HP:www.cnic.jp ●YouTube:[CNICJapan](https://www.youtube.com/CNICJapan)
●X(IBTwitter):[CNICJapan](https://twitter.com/CNICJapan) ●Instagram:[cnicjapan](https://www.instagram.com/cnicjapan)
●Facebook:www.facebook.com/CNICJapan



(ご注意)
・この用紙は、機械で処理しますので、金額を記入する際は、枠内にはつきりと記入してください。また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。
・この用紙は、ゆうちょ銀行又は郵便局の払込機能付きATMでもご利用いただけます。
・この払込書を、ゆうちょ銀行又は郵便局の渉外員にお預けになるときは、引換えに預り証を必ずお受け取りください。
・ご依頼人様からご提出いただきました払込書に記載されたおところ、おなまえ等は、加入者様に通知されます。
・この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。

収入印紙
課税相当額以上
貼付
印




この場所には、何も記載しないでください。

いまの日本で暮らすこと。 それは原発の危険といっしょに、暮らすことです。

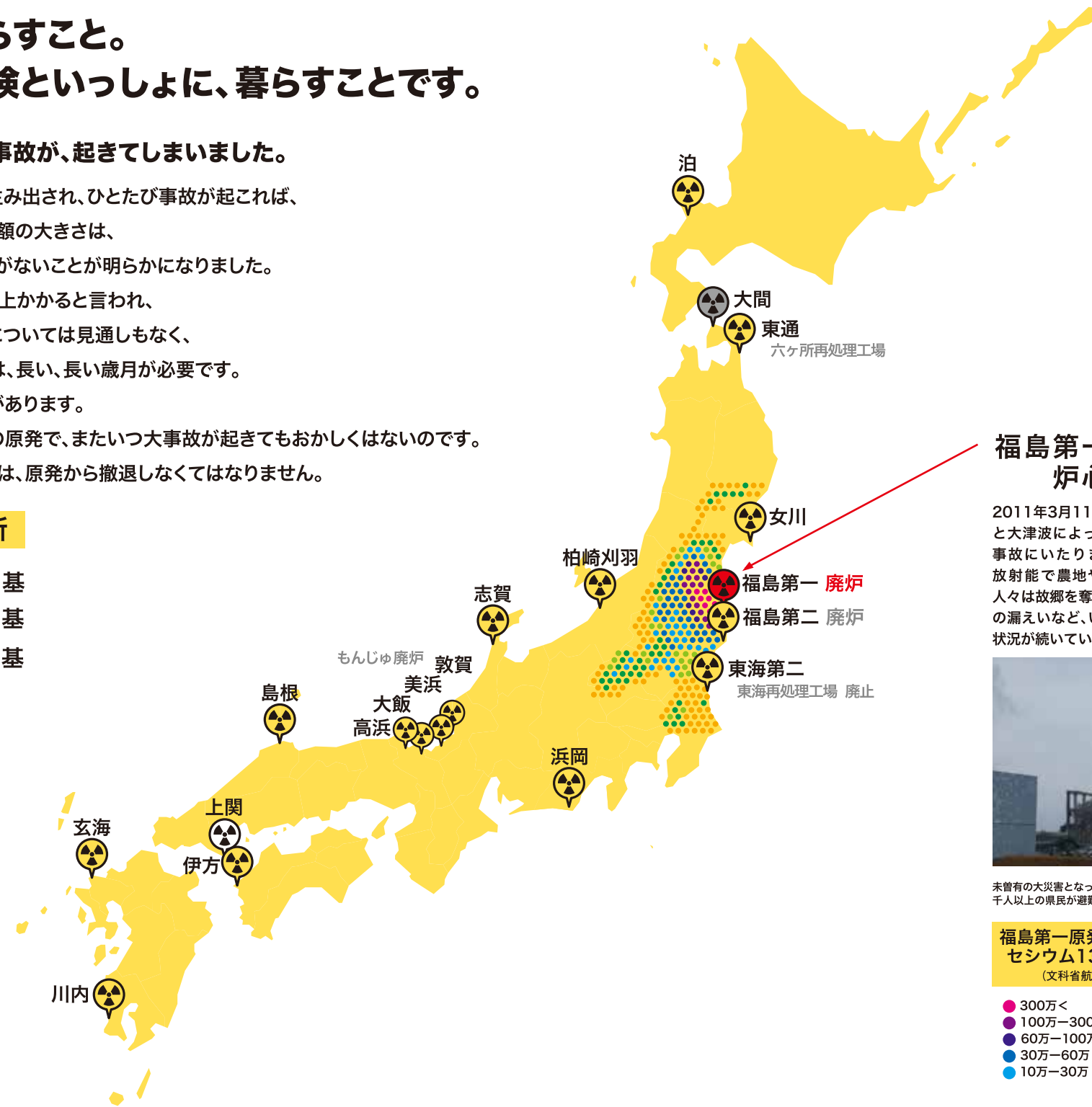
事実。心配していた爆発事故が、起きてしまいました。

原発ではたくさんの放射能が生み出され、ひとたび事故が起これば、その被害の広さと深刻さ、被害額の大きさは、他のどんな事故ともくらべようがないことが明らかになりました。事故の後始末だけでも40年以上かかると言われ、さらに放射能のゴミの後始末については見通しもなく、汚染された土地が元に戻るには、長い、長い歳月が必要です。日本にはまだ、33基もの原発があります。そして、あなたの近くのどこかの原発で、またいつ大事故が起きてもおかしくはないのです。再び事故が起きる前に、私たちは、原発から撤退しなくてはなりません。

日本の原子力発電所

-  原子力発電所 **33** 基
-  建設段階 **3** 基
-  設置許可申請 **4** 基

*2023年5月原子力資料情報室調べ
*1カ所に複数基の原発がある発電所もあります



福島第一原子力発電所 炉心溶融事故

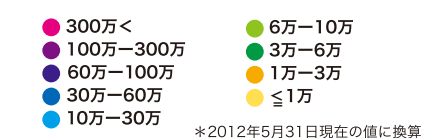
2011年3月11日、東日本で発生した巨大地震と大津波によって、核燃料が溶けて水素爆発事故にいたりしました。広範囲に飛び散った放射能で農地や山林、豊かな海が汚染され、人々は故郷を奪われました。たび重なる汚染水の漏えいなど、いまだに収束には遠く、厳しい状況が続いています。



東京電力HPより
未曾有の大災害となった東京電力福島第一原発事故。いまだ2万7千人以上の県民が避難生活を送っている(2023年2月現在)。

福島第一原発事故により地表面へのセシウム134,137の沈着量(Bq/m)

(文科省航空機モニタリングから作成)



いまこそ、一人でも多くの 市民とともに、訴えたい。

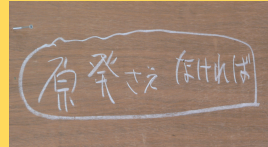
原子力資料情報室(CNIC)の脱原発「4」つの主張

*原子力資料情報室は英語名をCitizens' Nuclear Information Center (CNIC)としています。

1 CNICの主張

「原子力発電」は、早急に廃止すべきです。

福島第一原発事故でも明らかになった「放射能災害の危険性」、大量に発生する「放射性廃棄物」の後始末の困難さ。原発は数限りない問題をかかえており、早急に廃止すべきです。建設中、新規・増設計画の中止を求め、海外輸出にも反対します。



写真提供/長谷川健一
福島第一原発事故から3ヵ月後、大切に育てた牛をすべて失った相馬市の酪農家は、堆肥小屋の壁に写真の遺言を残して命を絶った。

3 CNICの主張

「放射性廃棄物」は、これ以上生み出すべきではありません。

原発を動かしている限り大量に発生し続ける、さまざまな放射性廃棄物。後世に残す「負の遺産」を少しでも小さくするためには、すぐに原発をやめる必要があります。すでに発生させてしまった放射性廃棄物は、その発生者である電力会社が責任を持つよう、強く求めます。



放射性廃棄物の問題および危険性についてわかりやすくまとめたCNIC発行の小冊子。

2 CNICの主張

「再処理」と「プルトニウム利用」の廃止を求めます。

「核燃料サイクル」の名のもとにおこなわれる、原発の使用済み核燃料の「再処理」とプルトニウムの利用は、放射能災害の危険性をますます大きくするだけです。プルトニウムが核兵器に転用される危惧をなくすためにも、「再処理」はいますぐ廃止すべきです。



福島原発事故後に14,000件以上の点検漏れが公表された高速増殖原型炉「もんじゅ」。核燃料サイクルの中心施設とされていたが、2016年12月に廃止。

4 CNICの主張

電気の「つくり方」と「つかい方」を、変えるなら今です。

エネルギーの使い過ぎが地球環境に深刻な影響を与えています。原発を推進しても地球温暖化防止にはなりません。いまこそ省エネルギーによって電気の「つかい方」を見直し、脱原発によって電気の「つくり方」を見直し、再生可能エネルギーへと変えていきましょう。



「さようなら原発1000万人アクション」集会に参加し、「脱原発」「自然エネルギー中心の社会」を求める17万人の市民たち(東京 代々木公園)。

あなたとともに、原発のない未来へ

原子力資料情報室

CNIC

原子力資料情報室(CNIC)は、政府や産業界から独立した立場で「原子力に頼らない社会」を実現するために活動している非営利団体です。

原子力利用の危険性や問題点に関する資料を集め、調査研究をおこない、そこから得られた情報を、市民による脱原発活動などに役立てていただけるよう提供。私たち自身による政策提言も、積極的に発信しています。

1975年に設立され1999年にはNPO法人化、2010年には寄付をしてくださった方々が税の優遇を受けられる認定NPO法人として認証されました。

あなたも私たちCNICといっしょに、原発のない社会に向けた、たしかな歩みをすすめていきませんか。



1970

1975 原子力資料情報室、設立
1976 『原発斗争情報』を編集・発行

1980

1987 『原発斗争情報』を『原子力資料情報室通信』に改題
1987 高木仁三郎が代表に就任。『NUKE INFO TOKYO』を創刊
1988 「原発とめよう2万人行動」の事務局を担当

1990

1991 「国際プルトニウム会議」を共催
1992 「アジア・太平洋プルトニウム輸送フォーラム」を共催
1994 「再処理を考える青森国際シンポジウム」を開催
1994 ベラルーシ共和国でシンポジウム「ニュークリアカストロフィ広島・長崎・チェルノブイリ」を共催
1996 『脱原発年鑑』(2000年から原子力市民年鑑)を発行
1997 国際MOX燃料評価プロジェクト最終報告書を発行
1997 報告書『もんじゅ事故と日本のプルトニウム利用政策』を刊行
1998 高木仁三郎代表、マイケル・シュナイダー氏とともに「ライト・ライブリフッド賞」を受賞
1999 特定非営利活動法人として東京都から認証



2000

2000 JCO臨界事故評価会議報告書『JCO臨界事故と日本の原子力行政』を刊行
2001 メールマガジン『CNIC EXPRESS』創刊
2002 国際会議「9・11後にエネルギーと民主主義を再考する」(IPPNWスイス主催)に参加
2004 原子力委員会の設置した「新計画策定会議」に共同代表 伴英幸が委員として参加
2005 JCO臨界事故評価会議が『青い光の警告—原子力は変わったか』を刊行
2006 シンポジウム「チェルノブイリ原発事故20年、なにが起きたか、なにが続いているのか」を共催

2010

2010 認定NPO法人として国税庁から認証
2011 福島第一原発事故の発生を受けFacebook、Twitter、YouTubeによる情報発信を開始
2012 シンポジウム「福島原発で何が起きたか—安全神話の崩壊」を共催
2012 原発問題をわかりやすく解説するフリーペーパー『別冊TWO SCENE』を創刊
2013 教保教育文化財団(韓国)「第15回教保環境賞」の国際部門優秀賞を受賞
2017 日米原子力協力協定と日本のプルトニウム政策国際会議2017を開催
2018 日韓プルトニウムシンポジウム「日韓の核燃料サイクル政策」を共催
2019 公開研究会100回記念講演会「脱原発社会の姿を考える」を開催



2020

2021 ライト・ライブリフッド賞40周年・高木仁三郎没後20周年記念イベントを共催

原子力資料情報室
CNIC
あゆみ

入会のご案内・ご支援のお願い

CNICのすべての活動は、市民の皆さまからの会費とご寄付によって支えられています。
あなたも「原子力に依存しない世界」への取り組みの輪に、ぜひ加わってくださいませんか。

正会員・賛助会員

入会する

CNICの刊行物をお届けします。

- ・毎月1回 『原子力資料情報室通信』
- ・不定期 『別冊TWO SCENE』

CNIC発行のパンフレット・リーフレットをお届けします。

一部書籍の会員割引があります。

正会員 年間 **12,000円**

*総会での議決に参加していただけます。

賛助会員 年間 **7,000円**

通信購読する



通信購読 年間 **4,000円**

寄付する

ご寄付は、確定申告で寄付金控除や税額控除の対象となります。
*会費は対象となりません。
*CNICは寄付をしてくださった方々が税の優遇を受けられる「認定NPO法人」です。

CNICでは一人でも多くの皆さまからのご寄付を、心よりお待ちしております。

*会費および購読料は入会月からの1年間分、自動更新となっております。更新月が近づくたびに「原子力資料情報室通信」お届け時にご案内が同封されます。



上記のすべてのご支援は、
全国の郵便局、インターネットから
簡単にお手続き可能です。

振込用紙は
P.10へ

P.10の用紙をご利用ください(手数料が無料になります)。用紙を使わずにお振込みされる場合は、お手数ですが別途お電話、ファクシミリ、メールによりお名前、ご住所、電話番号、お振込みの内訳(会員の種別、ご寄付など)をご一報ください。

- 郵便振替:郵便振替口座 00140-3-63145/加入者名 原子力資料情報室
- 銀行振込:ゆうちょ銀行 〇一九(ゼロイチキュー)店 当座 0063145 原子力資料情報室
- 上記金融機関からのお振込みのほか、PayPalを利用したクレジットカードでのお支払いも可能です。
<https://cnic.jp/support>

クレジットカードのお支払い▼



会費のお支払い

ご寄付について

私たちも原子力資料情報室を応援しています。

脱原発への願いはひとつ。国内で海外で、さまざまな立場から
CNICの活動に賛同して下さる方々の、応援メッセージをご紹介します。

韓国 脱核新聞
編集委員

小原つなき



CNICが発信する確かな情報と豊富な知識は、脱原発を押し進める多くの人たちへの支えと勇気です。韓国でも多くの人たちがCNICの活動に注目しています。国家の概念を越えた連帯で日韓の共通課題の解決に力を合わせ脱原発を進めましょう！

国際環境
NGO FoE Japan
事務局長

満田夏花



しっかりとした冷静な分析に基づく情報発信を継続している原子力資料情報室は、原子カムラからみてもこわい存在だと思います。私たちからすれば頼もしい存在。みんなで支えていきましょう！

ブリティッシュ
コロンビア大学教授

M.V.ラマナ



CNICはデータを入念に調査し体系的にまとめた情報を提供する素晴らしいリソースです。また、原子力村に抵抗する人々、再処理工場、福島避難者なども適切に取り上げており、情報を知りたいときはまずCNICのサイトを見ます。

龍谷大学政策学部
教授

大島堅一



原子力資料情報室は、原子力発電に関する高度な情報を一般市民に対して正確に発信し続けています。ぜひ市民の力で支えましょう。

俳優・作家、
元参議院議員

中村敦夫



テクノロジーは当初、社会に夢を与える神のように見えた。しかし、いつしか、その多くは悪魔の下僕となり、生物の殺戮を開始した。先陣が原発。原子力資料情報室は、大手を広げ、その暴走に「待った!」をかける。

弁護士
脱原発弁護団
全国連絡会事務局長

只野靖



3・11後、権力・マスコミは、有害・無用な情報を垂れ流したのに対して、原子力資料情報室は、正確・有益な情報を発信した。この時ほど、日本に、原子力資料情報室があって良かったと思ったことはない。

ルポライター

鎌田慧



私は『原子力資料情報室通信』と『はんげんぱつ新聞』の創刊号からの読者である。情報のネットワークと情報の共有が、全国の運動を支え、運動を助け、政府と対峙する自信を与えてきた。脱原発運動を牽引した専門性と大衆性の影響は大きい。

上関の自然を守る会
共同代表

高島美登里



上関原発予定地は「奇跡の海」と呼ばれる生物多様性のホット・スポット。未来の子どもたちに原発という負の遺産ではなく、豊かな自然を遺すことを目標に活動しています。CNICは日本の反原発運動の理論的支柱として、私たちに希望と確信を与えてくれます。

福島原発告訴団
団長

武藤類子



福島原発事故から12年が経ちますが、今も事故は収束せず、汚染水、汚染土の再拡散など問題は山積です。CNICの冷静で正確な情報が、私たち被害者の指針となり、「命の尊厳を守ること」が科学の本来の意味だと教えてくれます。

*敬称略/五十音順/2023年7月現在

P.10

STEP-1

払込取扱票の「金額」欄に、
ご送金金額を記入する。

STEP-2

「通信欄」に会員の種別、
ご寄付などの内訳を記入する。
ご寄付の場合は金額も
記入する。

STEP-3

「ご依頼人」の欄に
ご住所、お名前、
お電話番号を記入する。

STEP-4

お近くの「郵便局」
「ゆうちょ銀行」
または「郵便局の
払込機能付きATM」で
お支払ください。

ご入会、
ご購入の方には
案内や通信を
ご送付します。

ご寄付には
お礼のご連絡を
差しあげます。

▼こちらの用紙は全国の「郵便局」「ゆうちょ銀行」
または「郵便局の払込機能付きATM」でご利用いただけます。

振替払込請求書兼受領証

口座記号番号	001403	通常払込 料金加入 者負担	金額	63145	原子力資料情報室	おなまえ	ご依頼人	料金	備考
					様				
					日 附 印				

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押しつけてください。
切り取らないでお出しください。

02 東京	001403	63145	金額	料金	備考
原子力資料情報室					
* 送金されるお金の内訳を必ずご記入ください。 <input type="checkbox"/> 正会員 (年間 12,000 円) 【新規・継続】 <input type="checkbox"/> 賛助会員 (年間 7,000 円) 【新規・継続】 <input type="checkbox"/> 通信購読 (年間 4,000 円) 【新規・継続】 <input type="checkbox"/> ご寄付 () 円					
領収書【要・不要】 寄付者一覧への掲載【可・不可】					
おとこ (郵便番号))					
様					
日 附 印					
裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行)(承認番号東第55196号) これより下部には何も記入しないでください。					

各票の※印欄は、ご依頼人におて記載してください。